

令和3年(2021年)11月24日

保護者の皆様

札幌市立琴似中学校  
校長 國島 孝夫

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果について

向寒の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、本年5月27日(木)に3学年を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」につきまして、文部科学省から学校にその結果が届き、先頃、保護者の皆様にも生徒を通じて個人票をお渡ししたところです。本校においては、今回の調査結果をもとに、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために分析を進めてまいりました。このほど、その結果がまとまりましたので、その概要について保護者の皆様にお知らせいたします。ご家庭での指導等にご活用ください。

なお、今年度の検査である「国語」「数学」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の調査結果の公表については、「序列化や過度な競争が生じないように配慮しつつ、各学校が自校の結果を±3ポイントの幅を基準とした5段階による言葉を用いたり、成果と課題を丁寧に捉え、具体的な改善策を示したりすることとする。」という札幌市の方針を受け、以下のように示しております。

■ 国語、数学

それぞれ領域ごとの本校の平均正答率と全国平均との差を用いて比較しています。

+ 3.1ポイント以上	⇒ 「上回っている」
+ 3.0ポイントの範囲内で全国平均以上	⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや上回る」
全国平均と同じ	⇒ 「ほぼ同程度」
- 3.0ポイントの範囲内で全国平均以下	⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
- 3.1ポイント以下	⇒ 「下回っている」

■ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

全国と比較して差異の大きい質問のうち、「肯定的な回答の多いもの」と、「肯定的な回答の少ないもの」を選択しています。

また、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解いただけますようお願いいたします。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

中学校  
国語

【領域】

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率

・ほぼ同程度であるが、やや上回る。

□「書くこと」の平均正答率

・ほぼ同程度であるが、やや上回る。

□「読むこと」の平均正答率

・全国平均に比べ、上回っている。

□「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率

・ほぼ同程度であるが、やや上回る。

●話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考えること。

●書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと。

●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと。

●相手や場に応じて敬語を適切に使うこと。

○報告や紹介を基にした話し合いの過程において、話し合う目的や目指している到達点を踏まえて話し合いを進めることができるよう、話題を意識しながら話したり聞いたりする学習活動の充実。

○書いた文章を読み手の立場で読み返し、文や段落相互の関係は適切か、説明や具体例、描写等の表現が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、効果を生んでいるか検討し、分かりやすい文章に整えるなどの学習活動の充実。

○文章の内容や構造を捉え、精査、解釈しながら考えたり理解したりしたことを互いに説明し合うことを通して、自分の文章の捉え方を振り返り、自分の考えを確かなものにする学習活動の充実。

○会話をしたり手紙や電子メールを書いたりする際に、目的や場面、相手に応じた語句を選んで用いることや、発信した情報の受け止められ方を想像したり、相手の状況や媒体の特性などを考慮したりして書くことなどの学習活動の充実。

## 本校の概要

## 今回の調査における課題

## 改善の方向

### 【領域】

- 「数と式」の平均正答率  
・全国平均に比べ、上回っている。
  
- 「図形」の平均正答率  
・全国平均に比べ、上回っている。
  
- 「関数」の平均正答率  
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
  
- 「資料の活用」の平均正答率  
・全国平均に比べ、上回っている。

- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること。
  
- ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること。
  
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を与えられた表やグラフを用いて、数学的に説明すること。
  
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由をグラフの特徴を基に、数学的な表現を用いて説明すること。

- 一旦解決された問題やその解決課程を振り返り、問題の条件や過程を見直したり、共通する性質を見いだしたりすることを通して、統合的・発展的に考察するなどの活動の充実。
  
- 見いだした性質を共有した上で、更に言えることはないかを考えたり、見いだした性質を表、式、グラフに表し、相互に関連付けて考え、説明する活動の充実。
  
- 問題解決の過程を振り返り、用いた数学的な考えについて共有する場面を設定し、表やグラフを相互に関連させて考察することのよさなどを話し合うなどの活動の充実。
  
- 見いだした分布の特徴から結論を言うために、ふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明する活動の充実。

## ■ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

すべての質問について、肯定的な回答を合計し、全国平均と比較した結果について、特徴的なものをお知らせいたします。

### ○ 肯定的な回答の多いもの

・朝食を毎日食べていますか	本校 91.1%
・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	本校 87.8%
・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	本校 85.1%
・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校 93.1%
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校 90.6%
・友達と協力するのは楽しいと思いますか	本校 89.1%
・学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役立つと思いますか	本校 89.1%
・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	本校 94.0%

### ○ 肯定的な回答の少ないもの

・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	本校 58.4%
・家で自分の計画を立てて勉強していますか	本校 58.4%
・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	本校 42.6%
・今住んでいる地域の行事に参加していますか	本校 23.7%
・1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では 自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	本校 55.5%
・1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動をおこなっていましたか	本校 53.5%

### ○ 課題や改善の方向について

基本的な生活習慣や他者とのかかわりについて肯定的な回答が多く、ICT 機器を活用した学習に対しても積極的な姿勢が見られます。

一方で、計画を立てて勉強することや、失敗を恐れなくて挑戦する姿勢、地域の関わりについて肯定的な回答が少なく、自分の考えをまとめて発表することや新しいものを作り出す活動も同様の傾向が見られます。これらは、コロナ禍における教育活動における様々な活動の中止や制約による要因もあるものと思われます。

これらの課題の改善に向けて、今後、学校では「学びを止めず、学びを高める」という考え方のもと、生徒の良さや可能性を更に伸ばしていけるよう、教育課程の充実や授業の工夫改善に努めてまいります。